

「老人ホームでの出来事」

夕子さんのクラスは、今日、老人ホームを訪問します。クラスの子供たちは、老人ホームでお年寄りの介護をするグループと、デイケアセンターでリハビリを兼ねた交流会をするグループとに分かれて準備を進めてきました。夕子さんは食事のお世話、ひろみさんはお話、そして夏夫君は交流会でカルタをすることにしています。

三人の不安な気持ちが解消するまもなく、バスは15分ほどで到着しました。

夕子さんは上手にご飯を食べさせられるといいなあと思って、今日の献立をお盆に載せてベッドまで持って行きました。

「おじいちゃん、大きな口を開けてくださいね。そうしないとこぼれてしまうからね。」

でもおじいちゃんは口を開こうとはしてくれません。

「おじいちゃん、お粥ですよ。あ～ん。」

今度は、夕子の方が声を出してタイミングをとってみました。そうすると、一口食べてもらうことができました。でも、こんなペースでは何時間経っても食事は終わりそうにありません。

「どうしたら食べる気になってくれるんだろう。なんとかしなくては・・・」

とおじいちゃんを心配する気持ちと

「食べなきゃ食べないでいいわ。せっかく私が親切にしているのに・・・」

という少し腹立たしい気持ちとが入り替わりしました。そして、そんなことを考えている自分がいやになってきて、どのように自分の気持ちを納得させたらいいのか分からなくなってきました。

ひろみさんは、おばあちゃんとお話することが今日のめあてです。

「こんにちは。おばちゃん。私の名前はひろみです。今日はよろしくお願いします。」

おばあさんは、少しずつお話をしてくれるようになりました。そして、何とかひろみさんも話のお相手ができるようになりました。そんなとき、しわくちゃのおばあさんの手がひろみさんの手を握ろうとしました。ひろみさんは、なぜだかとっさに手を引いてしまいました。そのことでおばあさんは少し悲しそうな顔をしたような気がしました。

「悪いことをしたなあ。おばあちゃん気を悪くしたんだろうなあ。」

どうして手をつなげなかったのが、自分でもよく分からないひろみさんは、悩んでしまいました。

一方、**夏夫君**は、到着するとデイケアセンターですぐにカルタの準備をはじめました。

「犬も歩けば棒に当たる、の、い」

順調に進みます。

夏夫は、順番に読み札を読んだり、一緒に取ったりしました。でも、何だかもの足りません。

「おじいさんやおばあさんと一緒にやるカルタは、あまり楽しくないな。」

読み札を読んでいる良夫君やおじいさんやおばあさんがとても楽しそうで万事うまくいっている中、一緒に楽しめていない自分が何となくいやになってきました。